

「学校関係者評価報告書」の公表について

本校においては、教育や業務の改善を図るために、自己点検・評価に取り組んでまいったところですが、2013年度からは、本校に関係の深い企業関連の方々を中心に卒業生も含め「学校関係者評価委員会」を設置し、ご意見等をお聞きして、教育活動や学校運営に反映させております。

本年度については、学校関係者評価委員会を2021年5月14日に開催いたしました。その結果を、保護者や地域社会の皆様方に対し、説明責任を果たし、理解と協力を得るために「学校関係者評価委員会報告書」としてここに公表いたします。

学校関係者評価委員会では、本校が行った自己点検評価や学校運営上の重点項目に対して、多くのご意見やご助言をいただきました。本校では、ご指摘いただいた諸点を真摯に受け止め、より良い教育、学校運営を実現するために、教職員一同努力して組織的・継続的な改善を続けて参ります。

皆様におかれましても、学校に対して、引き続きご支援とご協力をお願い申し上げます。

2021年6月

学校法人京都中央学院

Y I C 京都ペット総合専門学校

校長 村田 忠男

学校法人京都中央学院 Y I C 京都ペット総合専門学校

学校関係者評価委員会

任期：2021年4月1日～2023年3月31日

(敬称略)

選出区分	氏名	所属等
職能団体	柴山 隆史	公益社団法人滋賀県獣医師会 会長
職能団体	森 尚志	公益社団法人京都市獣医師会 会長
業界団体	西躰 恭子	一般社団法人ジャパンケネルクラブ 近畿ブロックトリマー委員会 委員長
業界企業	田川 直樹	株式会社ひごペットフレンドリー 取締役人事部長
業界企業	塚本 清司	株式会社Lovely 代表取締役社長
卒業生	丸山 帆夏	ダクタリ動物病院 京都医療センター

学校事務局	氏名	所属等
学 校	細田 元一	学校法人京都中央学院 本部長
学 校	村田 忠男	Y I C 京都ペット総合専門学校 校 長
学 校	飛田 隆	Y I C 京都ペット総合専門学校 教務課長
学 校	内田 幸治	Y I C 京都ペット総合専門学校 管理部長
学 校	山根 大助	Y I C 京都ペット総合専門学校 内部監査（I R 準備）室長

YIC 京都ペット総合専門学校 学校関係者評価委員会 議事録

会議名	2021 年度 第 1 回 学校関係者評価委員会
日時	日 時：2021 年 5 月 14 日（金） 13:30～15:00
場所	場 所：YIC 京都ペット総合専門学校 2 号館 8 階 284 教室
参加委員	<p>公益社団法人京都市獣医師会：森様(オンライン) 益社団法人滋賀県獣医師会：柴山様(オンライン) 株式会社ひごペットフレンドリー：田川様（オンライン） 株式会社 Lovely：塚本様 一般社団法人ジャパンケネルクラブ：西舩様 ダクターリ動物病院 京都医療センター：丸山様(オンライン)</p> <p>事務局：村田校長、本部長、内田管理部長、内部監査室室長、澤学生支援課長、五郎吹田教務課長補佐、井田学科長、学科長 オブザーバー：鳥井（内部監査室） 欠席：飛田教務課長</p>
議長	
記録者	内部監査室：佐藤
配布資料	パンフレット・募集要項・2020 年度の自己点検評価、教育課程、カリキュラムマップ（オンラインの皆様へはメールにて送付）
進行	
1) 校長挨拶	<p>現在、第 3 回目の緊急事態宣言が発令されており、昨年度の 1 回目では学校に対して休業要請があったが、今回、京都府の場合は 50%以下の入校制限およびオンライン授業の推進要請となっている。</p> <p>学校ではオンライン、オンデマンド授業、分散登校、少人数編成感染症対策を講じながら授業を行っている。会合などは感染症対策を行い開催している。</p> <p>1 年以上続く with コロナの状況の中なんとか学校運営を行ってきたが、慣れないオンライン授業やオンデマンド授業の割合が増える中で学生にとって十分な授業展開ができていないか、期限内に単位認定、卒業認定までたどり着けるのか、行事なども中止となりできていませんが、このことが学生にどのような影響を与えているのか、学生の経済状況、就職先の状況などいろいろなことが大変気になっている。</p> <p>昨年度の卒業生は就職はほぼ決まり、この 3 月には無事卒業生を送り出すことができ、またこの 4 月には新たに 124 名の新入生を迎えた。昨年度からかなり愕然とした不安の中、授業を進めてきたが 1 年経ってみて大きな不安は少し解消したよう。しかしながらまだまだ変異株の感染拡大など気を抜けない状況が続いている。</p> <p>一方でコロナ禍に足を引っ張られるだけではなく学校運営は教育の質の向上を目指して行っていかなければならない。その一つのツールとして、この学校関係者評価委員会という機会を活用してまいりたい。本日は本校が行った自己点検評価について間違えご意見をお願いしたい。</p>
2) 関係者評価委員紹介	各委員挨拶
3) 教職員紹介	各教職員挨拶
3) 定員数確認および委員長の選出	学校評価委員会規程第 7 条に基づき、6 名中、5 名内 3 名オンラインで参加、1 名欠席で過半数を満たし本委員会は成立する。（委員は遅れて参加された）、委員長はハイブリッドの会議の為、臨時で学校側から本部長を推薦、全員に承認された。
4) 配布資料等確認	資料読み上げ

5) 議事

1. 2020年度の自己点検評価結果について

資料「2020年度 YIC 京都ペット総合専門学校 自己点検評価結果」に基づき以下の項目の報告および取り組み状況と課題・改善策についてより説明された。

- ① 1. 教育理念・目標
- ② 2. 学校運営
- ③ 3. 教育活動
- ④ 4. 学習成果
- ⑤ 5. 学生支援
- ⑥ 6. 教育環境
- ⑦ 7. 学生の受入れ募集
- ⑧ 8. 教育の内部保証システム
- ⑨ 9. 財務
- ⑩ 10. 社会貢献・地域貢献
- ⑪ 11. 国際交流

2. 2020年度の課題と重点項目について

評価項目	項目	課題と今後の改善
1. 教育理念・目標	1-1	1-1 教育目標→経営計画書に記載された内容を紹介。本年度に定めた重点的に取り組む必要な目標や計画について、2020年度の目標や計画について説明 ・専任教員、非常勤講師を含めたスキルアップの取り組み、ICTの活用、教育課程の大体系的な作成、ステークホルダーへの理解を目標として掲げている。また、学生への教育的支援としてリメディアル教育、入学後の学力向上を目標としている。
1. 教育理念・目標	1-3 1-5	課題：1-3と1-5の評価を3とした。 学校ごとの教育目標は定められているが、学科ごとの教育目標が定められていない。アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに関して、学科単位での設定がなされていない。 1-5において、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに関して、学生や保護者の理解度が不十分に感じる。 今後の改善方策：新入生保護者説明会、及びオリエンテーションで3つのポリシーについてしっかり説明する。また、学生については日々の指導においても繰り返し伝える。3つのポリシーについては、「学生便覧」において見直しものを記載している。（2021年度入学生向け）
1. 教育理念・目標	1-5	課題：1-5においてアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに関して、学生や保護者の理解度が不十分に感じる。対策→新入生保護者説明会、及びオリエンテーションで3つのポリシーについてしっかり説明する。また、学生については日々の指導においても繰り返し伝える。3つのポリシーについては、「学生便覧」において見直しものを記載している。（2021年度入学生向け）
2. 学校運営	-	4以外の評価となっているのは2-7, 2-8, 2-9を3とした。 教員配置や負担が適切かなどについて課題ありとした。
2. 学校運営	2-7 2-8	2-7,2-8においては、動物看護科において動物看護科の専任教員が十分ではない。動物看護科の教員の負担が増えている。
2. 学校運営	2-9	課題：2-9においては、4月に非常勤講師懇談会を実施しているが、非常勤を含めた教員のスキルアップのための研修等が不十分である。 今後の改善方策：様々なメディアを通じて教員募集を継続して実施する。 スキルアップの研修として非常勤講師も受講可能なE-learning研修を展開する予定。

3. 教育活動	3-8 3-17	<p>3-8、3-17において、評価3とした。 課題：3-8においてはコマシラバスの作成が不十分である。 3-17においてはインターンシップの依頼先と事前コミュニケーションを十分にとっているとは言い難い。 今後の改善方策：3-8においては必要性、重要性の理解を図り、コマシラバス作成を推進していく。3-17においては事前コミュニケーションを密にし、評価基準等の相互理解を深める。</p>
4. 学習成果	4-5 4-11	<p>4-5、4-11について評価を3とした。 課題：4-5においては、採用企業との情報交換の機会がない。企業と連携した卒業生の動向把握体制を確立できていない。 4-11においては卒業後の動向調査が不十分のためキャリア形成への効果を十分把握しているとは言い難い。授業改善にもつながるようなキャリア形成 今後の改善方策：業界・企業と連携した卒業生の動向把握体制を確立するため、学校、業界・企業での連絡会等、体制を確立するためのアプローチを進めていきたい。コロナ禍ではあるが体制だけでも改善したい。</p>
5. 学生支援	5-5 5-9	<p>5-5、5-9について評価を3とした。 課題：5-5においては、ホームカミングデーを動物看護科では開催している。本年度はコロナ禍の為、オンラインで実施したが集まらなかった。2021年度第3回もオンラインでの実施となりそう。ペット総合科では実施できていない。 5-9においては、リメディアルの補講を放課後にフォローの授業等を実施しているが参加者が少なく周知も徹底できていないや学習習慣が身につけていないなどの可能性がある。 今後の改善方策：5-5においては、ペット総合科にてホームカミングデーに類似するものもしくは卒業後にコミュニケーションを取れる場を設ける。 5-9においては、放課後に実施しているフォローの授業等の周知を徹底して参加フォローする。</p>
6. 教育環境	6-1 6-4 6-10 6-11	<p>6-1について評価2、6-4、6-10、6-11について評価3とした。 課題：6-1、6-5においては、インターネット環境等一部学内のインフラ整備に課題がある。また、学生の自宅でのインターネット環境にも課題がある。 6-4においては、図書や自己学習スペースの確保が十分とは言い難い。 6-10においては、滋賀県獣医師会との連携が課題である。コミュニケーション不足が課題。情報交換など密に取りながら改善したい。 6-11においては、インターンシップの依頼について事前相談という点において十分とは言い難い。また評価基準についてや実施内容についても明確にしたい。 6-1、6-5においては、学内のインフラ整備を進める。 6-4においては、実習室の開放や図書の充実を図る。動物看護科は蔵書があるがペット総合科が課題。 6-10、6-11においては事前コミュニケーションを密にし、相互理解を深める。</p>
7. 学生の受入れ募集	7-7	<p>7-7について評価を3とした。 課題：7-7においては、多様性、特殊なニーズについて調査・対応が十分とは言えない。学習障害や適応障害の対応力等が十分とは言い難い。環境面では多目的トイレの設置数やバリアフリーへの対策が課題 今後の改善方策：対応方法や支援方法に関する研修会やセミナー等へ参加しをさらにを行い、教務内にて共有する。</p>
8. 教育の内部保証システム	8-1 8-2 8-3 8-7	<p>8-1、8-2、8-3、8-7について評価を3とした。 課題：8-1、8-2、8-3においては授業アンケート項目・実施頻度、授業参観の実施は十分とはいえない。QUなど利用しているが改善策の検証が十分とは言い難い。 授業アンケートについては年2回の実施を行ってきたが、カリキュラム内容の改善など授業改善とまで行えていない。アンケートの質問内容の見直し、実施回数の検討。授業参観も体系的に十分に実施できていない。カリキュラムの改善、授業内容の改善についてはQUアンケートなどで教育提供状況を確認しているが改善策の検証が十分とは言えない。 8-7はこのコロナ禍の為、対面での研修などが十分行われていない。オンラインもあるが技術的な面の研修となると対面が多くなるが、実績不十分。 今後の改善方策：年4回の授業アンケート、アンケート項目の精査、授業参観月間の設置、改善策の効果検証を実施する。流れとしてはアンケートの実施→集計傾向と改善策の立案→教員へフィードバックし、改善策の効果検証を検討。</p>
9. 財務		<p>すべての項目で評価4とした</p>

10. 社会貢献・地域貢献	10-2	課題：10-2 のボランティア活動においてはコロナ禍の影響から十分に取組んでいるとは言い難い。 今後の改善方策：状況が許す限り、ボランティア活動に関しての取組む意識と姿勢を育てる指導を行う。また、上級生学生から下級生学生への取組み発信を検討する。
11. 国際交流	11-2 11-3	すべての項目で評価4とした。 本年度はコロナの影響で本国から直接入学する機会は減少する傾向。 留学生は学び以外に、生活指導なども必要。改善点は学生支援のスタッフの対応ができています。

3. 2020年度への取り組みへの意見等

評価項目	項目番号	ご意見（委員）	回答（事務局）
全体		評価の方法などを改善しておられるのか。	→ 従来は制度や規定、体制があれば評価4としていた。本年度から制度の有無ではなく、改善のPDCAが運用されているか、改善活動に取組んでいるのか、中身の質を問うような評価とした。制度や規定が無くなった訳ではない。
全体	-	改善点として毎年同じような課題が挙がっている。改善が進んでいるのか状況は	2020年に3つのポリシーの改善に取り組んでいる。ステークホルダーへの周知徹底の取り組みは継続して実施。また、理解の確認なども実施を検討。 本来は学科単位で設定が基本だが、専門学校ではあまりそのような取り組み見ないが、今後は学科ごとへの見直しを検討。 (学生便覧にて、3つのポリシー紹介、アドミッションポリシーの改善点、) 保護者説明会でも説明を実施。
全体	-	課題の業界のニーズに対する課題については	昨年からのコロナ禍の影響で、様々な要所でICTへの取り組みを踏まえて、学生に求められる知識や対応力などへ、皆様からご意見を伺いたい。
全体	-	獣医師の大学の学生にも言えることだが、我々との感覚の違い。就業する環境が変わったことが大きい。それに対応した学校の指導の変化を伺いたい。 インターンシップの受け入れでも毎年学生の様子が異なる。公立の大学でも一人の教員で保護者と学生を前にして対応することがないような傾向がある	厳しい躰とした校訓があるが、厳しさの定義が変わってきている。

全体	-	トリマースタッフの採用がほとんどではあるが、毎年採用後、研修、OJTトレーニングを実施している。評価のヒヤリングを行うとコロナ禍に入り実技の面でのトレーニングが減っている。基本の技術や作業効率が従来と比較して伸び悩んでいる。学内での実習の時間の確保が難しいなら企業側でできることとしてはインターンシップの研修受け入れには積極的に取り組んでいるが、多くの企業で増えないと行けない。実習単位を補うような取り組みの実施を検討してみてもどうか。また、学校によってはクリッパーでのカットを実践していない学校もあると聞く。このような卒業生に対しては受け入れ企業が1から教育することになる。事前教育をお願いしたい	サロントリマー検定1級の受験指導でクリッパーの利用が含まれている。
2 学校運営の課題	2-9	弊社では小動物は対応していないが、連携授業の実施については他校からもご依頼があるが過去実施していない。内容にもよるか興味はある。	小動物などで帯やスポットで授業対応を今後依頼したいと検討している
全体	-	卒業生が学生のキャリア教育にかかわっていただくとする職場環境的には難しい、対応できる看護師もかぎられてくる。	現在は会社紹介、病院説明会などにご協力いただいている。
4. 学習成果	-	課題：4-5においては、採用企業との情報交換の機会がない。とあったが、事前の企業との相談など学校として事前の対応は改善しているのか	院内実習、インターンシップの受け入れでは評価基準の相互理解が重要。動物病院の報告書を参照。評価の厳しさなど具体例の習り合わせなど難しい点もある。依頼前にさらに理解を深める機会が必要。動物病院の業務環境など学校側も配慮したい。
4. 学習成果	-	補足 課題は企業、病院によって評価のレベルが違いが課題。 中身についてもかなり難しい記載もあるが、評価方法も明確でなかったりしている。病院側でもガイドラインの内容項目をしっかりと把握されていないところもみられる。 実施に向けて病院側へ説明の機会を調整したい。眼底カメラがあるところとないところなど施設によっても受け入れの可否もあるなど	依頼項目については動物看護師統一認定機構のガイドラインに従って実施している。
3. 教育活動	-	評価方法の内容は確認していただいているか？、また、事前に評価方法など学校側と調整することは可能か。	現状ではまだ開示されていない。カリキュラムなどはYouTubeで配信されていたが、実習については触れられていない状況。学ぶ内容については今までと大きく変わって以内印象。動物の適正飼育指導と新たなカリキュラムもある。病院側へご相談する。
3. 教育活動		評価基準について決定した段階で、受け入れ側の病院などを集めて、一斉に発信していただく機会が必要。指導案や評価が明確になった方が病院側もありがたい。	ご意見のように本来ならば評価する側の獣医師を集めて発信していただく方が効率的。時間調整はコロナ禍の為オンラインなども検討。
3. 教育活動		評価について学校と獣医師、獣医師同士間で評価基準の情報共有をしっかりと行かないと行けないと感じる。	
5. 学生支援		5. 学生支援の課題：5-5においては、ホームカミングデーを動物看護科では開催しているが、ペット総合科ではどうか	卒業生アンケートを数年前に実施した経緯はある。

	追加報告	資料より 2020 年度の資格取得状況前年比の報告および就職実績は 87 名中、関連企業 81 名となった。	
7) 今後の予定	今後ご意見をいただきたい。必要があれば委員会を開催することも可能。年 1 回の会議はこれで終了。		